

市長・市議会議員の同時選挙について

集約結果 賛成 13 人 反対 9 人 (議長を除く)

会派名	賛成 (人)	反対 (人)	理由
豊義会 (木谷敏勝 岡本昭治 小森弘詞 前田敦司 荒木慎大郎 芹澤正志 森垣康平 米田達也)	8 人	0 人	賛成理由 ・会派で議論を重ねた結果、令和 7 年 4 月に同日選挙を実施すべきであると決定した。私たちが議論を重ねてきたことが市議会が市内自治会（行政区）に依頼したアンケート結果と一致していたことも理由の一つである。 ・市議会が市内自治会（行政区）に依頼したアンケート結果によると、同日選挙が望ましい理由として、効率的な選挙ができ経費の削減につながるが 40.9% 投票率の向上により市政に民意が反映されるが 22.0%、市民の利便性が向上するが、21.0%など、多くが同日選挙に賛同の意向である。 ・令和 7 年 4 月に同日選挙を実施することを前提に考えると、新たに立候補される方の準備期間は、最低 1 年間が必要であると考え。そのためには、遅くとも令和 6 年 3 月議会期間中に結論を出すことが必要である。 ・アンケート結果によると、市長・市議会議員選挙の同日選挙について 82.2%の自治会（行政区）が望ましいとの結果になっている。

会派名	賛成（人）	反対（人）	理由
令和とよ おかクラ ブ （福田嗣久 石田 清 清水 寛 田中藤一郎 松井正志）	0人	5人	反対理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民福祉向上のために市民の声を聞き、市政に反映することが重要である ・ 議員間での議論が不足している。 ・ 同日選が出来なくなった場合などの事情についての議論がされていない。 ・ アンケート調査結果と意見のみで、区長会からの意見や要望が不足している。 ・ 経費は民主主義の根幹に関わる問題であるが、経費だけの議論ではなく、他の方法も考慮すべき。 ・ 議員定数削減は意義があるが、同日選挙の意義は薄い。 ・ 4月の選挙時期では年度制の中で問題があり、秋の同日選が市長任期を実のあるものにするために望ましい。臨時的な選挙施行経費削減を狙ったとしても、問題を増幅させるだけ。 ・ 同日選を指向するには制度変更を求めるのが議会として先立つ行動である。 ・ 4年間の市民に対する責任は経費だけの問題ではない。任期を務めるのがまず議員の第一であり、議員在日期间に対する権利と責任についての議論が必要である。 ・ 同日選だから投票率が上がるとは言えない。 ・ 1年生議員にとって4年目は起承転結の結として大変重要である。

会派名	賛成 (人)	反対 (人)	理由
ひかり (太田智博 西田 真 義本みどり)	2人	1人	<p>賛成理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同日選挙による経費効果(約2,000万円減)は、財政難の豊岡市にとっては大変大きいことから同日選挙に賛成である。 ・選挙人の負担軽減策からも同日選挙に賛成である。 ・ジェンダーギャップを旗揚げしている本市としては、区長会=男性・高齢といった印象が大変強いことから、女性や若者の意見も絶対に聞くべきである。 <p>反対理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民を巻き込み、情報開示しながら議論すべき(方法等も含め議論) ・選挙は民主主義の根幹であり、経費削減の論理のみでの判断をしてはならない。 ・投票率向上は期待できるが、他のメリットデメリットの議論を掘り下げる必要がある。 ・4年任期として市民が投票していて、期間が半年短くなれば公約を果たせない。
日本共産 党市会議 員団 (村岡峰男 上田伴子 須山泰一)	0人	3人	<p>反対理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に選ばれた4年の任期を、議員自ら削減することは、市民に対する「任期縮小」による裏切り行為ではないか。 ・6か月の期間でも、市長公約に対する議会独自の判断ができる ・議員が市長選挙に事実上参加することができなくなる。

会派名	賛成 (人)	反対 (人)	理由
公明党 〔芦田竹彦〕 〔竹中 理〕	2人	0人	賛成理由 ・選挙には多額の経費がかかり、わずかな期間に2回の選挙が行われることは非効率的であるため、同時選挙が望ましい。
会派 おおぞら 〔前野文孝〕	1人	0人	賛成理由 ・この年は豊岡市議会選挙の他、市長選、知事選があり、場合によっては衆議院選挙もある。一年に何度も選挙をすることは市民の負担が大きく、特に選挙立会人の負担が大きい。現状でもなり手がいない。負荷軽減のために同日選挙を行うべき。 ・市長選と議員選挙を同時に行うことで、市民の関心が高まり、投票率が上がることが期待される。

議員定数について

集約結果 ・ 定数 20 人 9 人 ・ 定数 22 人 4 人 ・ 定数 24 人 9 人 (議長除く)

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
豊義会 (木谷敏勝 岡本昭治 小森弘詞 前田敦司 荒木慎太郎 芹澤正志 森垣康平 米田達也)	賛成 8 人	賛成 0 人	賛成 0 人	20 人の理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会派で議論を重ねた結果、定数を 20 人にすべきであると決定した。私たちが議論を重ねてきたことが市議会が市内自治会（行政区）に依頼したアンケート結果と一致していたことも理由の一つである。 ・ 令和 3 年 8 月に調査された全国市議会議長会の資料によれば、人口 5 万人から 10 万人の 250 市区では、1 市区あたり平均議員数は 20.3 人となっていることから、議員定数 20 人が妥当である。 ・ 議員定数を 26 人から 24 人に改定後、2013 年 10 月に実施した市議会議員選挙時の人口は 86,785 人であった。それから 11 年が経過した 2023 年 10 月の人口は 76,744 人である。この間 10,041 人の人口が減少していることを考えると、現行定数 24 人から 4 人削減した 20 人を議員定数とすべきである。 ・ 議会が市内自治会（行政区）に依頼したアンケート結果では、定数を見直す必要が、59.6%と高く、現在のままでよい 34.2%を大きく上回っている。また、見直す必要議員定数では、20 人

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
				の割合が最も多く 31.4%となっている。
令和とよ おかクラ ブ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 福田嗣久 石田 清 清水 寛 田中藤一郎 松井正志 </div>	賛成 0 人	賛成 0 人	賛成 5 人	<p>24 人の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員を減らし、議員報酬増に繋げるなら反対。市民の所得状況や少子化対策・子育て支援の財源などの観点からの議論も想定され、別々に考えるべき。 ・議員定数検討の目的が不明である。報酬総額削減が目的ならば、現行定数のままで報酬削減を図るべきであり、多様な意見の効率的集約が目的ならば、定数増又は定数増と報酬削減を同時並行的に図るべきである。 ・区長アンケートに当たって参考資料が添付されていた。添付の経緯は不明であるが、誘導質問とも言え、アンケート結果のみに依拠して定数を検討することはできない。 ・「定数 20 人へ」と「22 人へ」を合わせて 48.6%であり、「その他見直し」と「現在のままでよい」及び「分からない」を合わせると 51.4%であるため、「22 人へ」及び「20 人へ」の削減が民意であるとは言えない。 ・仮に定数を削減するとしても、議会の調査・立案機能の拡充が前提である。定数削減と議会機能の拡充を両立させるための議論が必要である。 ・多様な意見や人材の効率的集約にとって議会はどうあるべきかを議論すべきである。削減数の可否を論ずるだけでは議会改革に値しない。

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
				<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議会改革の流れ、市民から定数削減の要望は出ていない。 ・人口 5 万人以上 10 万人未満の市区の議員定数の平均は 20.3 人であるが、同じ類似団体に属する近隣の市の平均は 23.5 人である。 ・人口が同程度の類似団体と比較しても、豊岡市の行政組織の規模及び標準財政規模は 2～3 割上回っており、議会の権能の一つである執行機関を監視するために適切妥当な定数が必要である。 ・関西学院大学の林宣嗣教授による計算式（市の人口と面積から現状の議員定数が概ね把握できる）に当てはめると、豊岡市の議員定数は 25 人となる。
<p>ひかり</p> <p>（太田智博 西田 真 義本みどり）</p>	賛成 0 人	賛成 2 人	賛成 1 人	<p>22 人の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員が現地に出向き多様な意見を拾い上げるなら定数 24 名が望ましいが、昨今 SNS の普及により様々なツールを使い市民の意見を拾い上げることは可能であり 22 名でも可能である。 ・人口減による歳入が減少していくなか、議員定数を削減し歳出の負担を軽減させる必要もあることから定数削減はやむを得ないと判断できる。 ・常任委員会の最適人員数は 7 名～8 名とも言われる。そのことを踏まえても定数削減であれば 22 名が妥当である。 ・女性や若者が出馬しやすい環境をつくることは必要であり、女

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
				<p>性や若者に議員定数について意見を聞くべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定数削減以外の回答が 51.4%である。この数値もしっかり議論の土台に乗せるべきである。この数値の議論がなされないと民意であるとは言えない。 ・ 定数削減には議員力アップの議会改革議論も必要である。議員による市政報告会の開催など。 ・ 議員定数と議員報酬は別物ではあるが、議員報酬審議会の立ち上げを要請しこの機会に議員報酬の議論もすべきである。 <p>24 人の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダーギャップ解消の観点から、現段階で女性が 8%と少なく、現段階の定数削減は女性が立候補しにくくなるので今は減らすべきではない。 ・ 定数は議会にとって最も重要な要素である。 ・ 議会には多様な市民の代弁者という責務があり、経費削減の論理で判断はしてはならない。 ・ 議会改革は、市民に開かれた議会、市民参加を推進する議会、市民に身近で信頼される議会となるためにどうすればよいかを議論することで、議員定数削減を先に進めることは本末転倒 ・ 市民を巻き込み、情報開示しながら議論すべき(方法等も含め議論) ・ 削減してどんな議会を目指すのかが不明瞭で議論が不十分。

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 反対意見や多様な意見があるからこそ新たな気付きがあり議論の幅が広がる。 ・ 委員会での活発な議論ができなくなる。
日本共産 党市会議 員団 (村岡峰男 上田伴子 須山泰一)	賛成 0 人	賛成 0 人	賛成 3 人	24 人の理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 市 5 町合併時 95 人の議会から、現在は、わずか 24 人であり、面積、人口から見て決して多くはない。過疎化・高齢化・少子化だからこそ議会・議員の果たす課題は山積している。議員定数を減らす余裕はないと痛感する。 ・ 定数削減は議会制民主主義の後退である。ましてや議員自ら議員の権限と任務を削減すべきではない。 さらには、定数を減らすことで若者・女性の議会参加の機会を減らすことになることが懸念される。 ・ 多種多様な市民の意見が反映される議会とは、多様な経験・経歴・地域・考え方の市民が参加することが理想であり、議会自ら多様性を封じる行為はとるべきではない。
公明党 (芦田竹彦 竹中 理)	賛成 0 人	賛成 2 人	賛成 0 人	22 人の理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定数条例適用年から 10 年以上経過しており、人口減少及び財政面を考慮し、市民負担を減少させるため、2 人削減するのが妥当である。

会派名	定数 20 人	定数 22 人	定数 24 人	理由
会派 おおぞら [前野文孝]	賛成 1 人	賛成 0 人	賛成 0 人	20 人の理由 <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市の人口の今と、今後の状況を考え、県内の他市の人口と議員数をみると 20 名が適当であると考えます。 ・豊岡市の面積は広いことは考慮すべき点ではあるが、ほとんどが森林であり、議席数を維持するための十分な理由とは言えない。 ・このところ、市議会議員選挙は実施されたが、定数に対して立候補者が少し超えるくらいで競争率は非常に低い。 ・20 名に減っても、地域バランスが崩れ、旧町から議員がいなくなる所が出る可能性は低い。 ・議員定数が削減されると、議員にかかる歳費などが節約される。 ・定数削減だけでなく、議員活動の充実と、議員立候補者の増加に向けての議論を進めるきっかけとしたい。